

ふるさと垂井への誇りと愛着をもち 心豊かで創造性あふれる人づくりに向けて

垂井町教育委員会 生涯学習課

1 はじめに

垂井町では、第6次総合計画において垂井町の将来像を「ひととまちが輝く 地域共創都市～さらなるやさしさと活気を求めて～」と定めている。

これを踏まえ、垂井町の生涯学習は、町民の多様な学習要求に対応していく中で、「ふるさと垂井への誇りと愛着を持ち、心豊かで創造性あふれる人づくり」をめざして推進している。

2 事業の概要

(1) 各種講座講演会について

生き生きライフ推進構想～学ぶ喜び、ふれ合う喜び、支え合う喜びを求めて～を基軸に各種講座を開催している。また、前年度より新たにシニア講座を開設した。

① 各種講座の開催

② ア 夏休み子ども講座

夏休み期間を利用して小中学生を対象に、7講座を実施した。内容は、「木工教室」、「図書館たんけん」、「飛ぶシリーズ第4弾！紙皿フライングディスクで遊ぼう！」、「親子で楽しくロボットプログラミング教室」、「実験で知る！電気のしくみ」、「太陽光で動くロボット工作！」、「英語だけで過ごす1日～遊んで・作って・食べて！～」など、学校の教育の内容にあわせながら講座を更新している。



ロボットプログラミング
教室の様子

イ 成人セミナー

成人を対象に「スマートフォンの動画講座」、「ソープフラワー教室」、「お正月飾り講座」など、3講座を実施した。ソープフラワー教室やお正月飾り講座は、講師が作ってきた見本を元に自分だけの作品を作る。試行錯誤しながら、講師からアドバイスを受け、自分の満足のいく物に仕上げた。



ソープフラワー教室の様子

ウ シニア講座

65歳以上の住民を対象に「秋野菜の種まき講習会」、「庭木の剪定講習会」の2講座を実施した。どちらの講座も、質問を交えながら講座を進め、受講者個人の悩みや相談が解消でき、楽しく学習することができた。



秋野菜の種まき講習会の様子

③ 人権フォーラムの開催

人権フォーラムは12月の人権強化月間にあわせて開催している。本年度は、高齢者で構成されている生き生き学級の受講生と、幼稚園・保育園・こども園、小中学校の保護者で構成されている家庭教育学級生など、合計348名が参加した。フォーラムの内容は、人権に関わる募集作品の入賞者の表彰と、人権をテーマとした作文の優秀賞受賞者2名が発表した。その後、絵本作家の後藤正幸氏を講師で迎え、「すべての人への思いやりと優しさを持ち、笑顔で住みよい垂井町にするために 今私たちは、何をすべきか考えよう」をテーマに、各中学校生・高校生・PTA会長・人権擁護委員でパネルディスカッションを行った。それぞれの立場から人権について話し合い、有意義な交流ができた。



パネルディスカッションの様子

(2) 学校支援地域本部事業（学校支援ボランティア）について

ア 概要

地域住民の自らの経験や、学習効果を活用できる場が広がることにより「生涯学習社会の実現」につながることを目的とし、平成23年度より実施している。ボランティアの登録人数は、令和元年12月時点で663名となっている。

年間平均のボランティア回数は450回程度で延べボランティア参加者数は1200名程度で、多くの方に学校支援ボランティア活動を行っていただいている。「児童や生徒のために何か役立つことはないか。」と、献身的に支援をしていただいております、子どもたちの健全な育成を願って活動していただいている方が多い。

イ 活動例

垂井町立府中小学校と垂井町立岩手小学校合同で雅楽教室（合同音楽）を実施した。府中鳳鳴社（学校支援ボランティア）の方々の指導のもと、雅楽を学習した。まず、越天楽、皇章急（おうじょうきゅう）の曲の優雅な音色が響き渡った。その後、雅楽器の体験をした児童は、「笙を吹いたときに音が出て、（やったー。）と思いました。」「篠笛クラブをやっていたので、横笛の音が出て良かったです。一番印象に残りました。」などと感想をもった。



▲雅楽教室の様子

3 課題

(1) 各講座について

講座のニーズは多様で、聞くだけでなく、体験や学びを町民同士で交流し、より知識を深めることができる講座が必要である。

(2) 学校支援ボランティア

学校の要請とボランティア登録内容のマッチングが課題。待機中の方も多し。ボランティアの方の固定化と高齢化も課題である。